

## 地域連携による企業成長

澁谷 修一  
(有限会社福島溶材工業所)  
代表取締役社長



弊社は昭和18年創業、今年74年目を迎えた企業でございまして、私で4代目となります。

設立当初は被覆アーク溶接棒のメーカーとして起業いたしました。溶接材料や溶接機器の発展に伴い工法の自動化が進み、被覆アーク溶接棒の需要が減退したことにより同業他社も減少し、現在では北関東以北で唯一の溶接棒ブランドとなっております。

このような状況により弊社としても事業内容の転換を余儀なくされ、現在の業務は設立当初とは全く異なる形態となっております。

前述の通り弊社ブランドの溶接棒につきましては、一部の根強い需要家様のご要望により販売を続けておりますが、全てOEM供給を受けており弊社での溶接棒製造は行っていないのが実情でございます。

さて、私は昭和52年それまで勤務していた東京の食品商社を退社し弊社での仕事を始めましたが、従来からの事業であった溶接材料・溶接器具の販売に加え、新規ビジネスとして高圧ガス販売を行うにあたり、許認可上必要となる販売主任者を担当いたしました。

第一種・第二種高圧ガス、医療用高圧ガスの販売免許を取得し、更に液化石油ガス設備士の工事免許も取得、取扱う品目も増加するとともに工事業務も可能となり、現在に至っております。

一方、弊社は生産工場としてのスタートでございましたので、当然のことながら自社工場の稼働率を高める必要にも迫られておりました。しかしながら溶接棒の生産量は衰退の一途をたどっておりましたので溶接棒製造部門を思い切って廃止し、弊社の溶接材料や高圧ガスを使用して頂いている需要家様と競合しない職種として、特殊溶接加工を請け負う会社へと転換を進めてまいりました。

現在は被覆アーク溶接棒メーカーとしての溶接技術を基礎とした精密溶接技術に加え、数値制御精密加工技術を活用し、医療用・半導体工業用・電子機械工業用機器の鏡面処理を含む高精度機器の設計製造を行っております。

特に、異種金属溶接の半世紀以上にわたる豊富な経験と実績に裏付けられた接合技術により顕微鏡レベルで行われる弊社マイクロ接合技術は、急速な材料の多様化と対象ワークの高機能化・微細化において、普段目にする事のない界面化学を基盤とした技術のもと、品質と信頼性とお客様にお役立ていただいております。

これらのことは一足飛びには達成できない事柄であり、長い年月をかけて培った技術・技能の蓄積によるものでございます。

精密な溶接を歩留まり良く生産可能にするためには、精度良く作られた部品が必要となります。当初、部品製造は協力工場様に製造委託しておりましたが、加工精度のバラつきにより歩留まりが悪く高コストとなってしまう問題とともに、試作品等の製作では社内で自由に部品加工を行う必要もございましたので、部品を自社生産することとしNC工作機械を導入いたしました。

機械加工の経験がない溶接専門の企業が数値制御の機械を早期に使いこなすことができましたのは、今から40年ほど前になりますが、私がまだ20歳代に同業でありながら、顔も名前も知らずに各々の事業所で働いていた事業後継者同士の連携を図るべく、鉄工関係の二代目三代目で組織された「福島鉄工青年協議会」に参画をさせていただいたことによるものであり、この出会いがなければ、現在の私そして弊社の姿はなかったと思っております。

図面も読めない私に多くの事を教えていただき、且つ各社の得意技術を有効に活用しながら仕事のやり取りも行うなど、まさに企業連携のロールモデルといったところでございますが、これらのことは私が理事長を務めております福島県鉄工機械工業協同組合の青年部へ脈々と受け継がれております。

また新たな技術や製品開発に際しましては、大学や行政機関、更には産業支援機関など、開発資金支援制度の活用を含め様々な皆様にお世話になってまいりました。

製造技術の確立まで3年を要した案件もございましたが、苦労を重ねました分、今では他社様には真似のできない世界最高クラスの技術に育ち、弊社の主力生産品の一つとなっております。弊社の技術力をご認識いただき多くの皆様との信頼関係が構築できましたことに対しましても、大いに感謝申し上げますとともにこれも連携の一形態であると考えております。

さて、これまで私を支えていただいた地域社会に多少なりとも恩返しをしなければと考え、組合理事長や各団体の会長などを拝受いたしておりますが、現在の複雑かつ高効率を求められる社会構造の中では、互いの専門性や得意な事柄を有効に活用できるビジネスの形態として産学官金による連携が必須と考えており、多くの皆様がメリットを享受できるような企業連携、地域の連携などを念頭におきながら事業の活性化を図っているところでございます。

弊社の新しいビジネスとしては、産業用ドローン出荷台数で日本トップクラスの福島市のメーカー様と新たな産業創造を目標に連携し、機体組立と自律飛行調整、メンテナンスを弊社で担当しており、現在新型機2機種種の発売に向け最終調整中でございます。

また医療機器関連では、福島県より補助金を受け開発した医療用超音波洗浄機を県内大手病院様で実証試験していただいておりますが、良好な結果を得ることができましたので、医療機器製造販売の事業免許を取得し、販売に向け準備中でございます。更に福島・郡山地区の5社様との連携により脊椎インプラントの国産化を目指し、平成30年度中の製品開発完了に向け取組んでいるところであります。

末筆になりますが、東日本大震災後の復興は着々と進んでおります。しかしながら原子力発電所事故の影響もあり遅れている地域もございます。弊社といたしましては微力ながらも一日も早い復興へ向け、お役に立つことができますよう地域貢献をより一層進めてまいりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。